

茶釜の湯が笑いの渦に

落語家・古今亭志ん八さんが駆け付け、演芸会

通所リハビリテーションセンター「茶釜の湯」に2月9日、落語家の古今亭志ん八さんが訪れて、「ボランティア演芸会」と題して一席設け、会場中を笑いの渦に巻き込みました。会場には、利用者さんや地域の人々が詰めかけて、プロの芸を堪能していました。

古今亭志ん八さんは、「全日本おむつ団」のメンバー。全日本おむつ団は、2011年に発生した東日本大震災の被害に遭った人たちに、笑いを通して元気を取り戻してもらおうと、落語家の笑福亭鶴笑師匠が1人で1年間に100カ所の施設でボランティア落語を開いたのがきっかけ。鶴笑師匠の趣旨に賛同した落語家やエンターティナーの10人が集まり、16年に全日本おむつ団を結成。東日本、西日本に分かれて、公益社団法人「日本フィランソロピー協会主催、王子ネピア協賛で施設などを訪問し、ボランティア演芸会を開いています。そのメンバーの一人、古今亭志ん八さんは、テレビやラジオでも活躍し、今年9月には真打に昇進する予定で、古今亭志ん五を襲名します。

狸の出囃子にのって茶釜の湯の舞台上に上がった古今亭志ん八さんは、扇子や手ぬぐいの小道具を解説したり、漢字ゲーム、小噺^{こぼなし}、昔話などを面白おかしく解説。ハエの小噺を披露し、会場を爆笑の渦に巻き込みました。最後は、落語「目薬」で、夫婦のコミカルなやり取りを演じ、会場から大きな笑いとお手拍りがおきました。会場を去る時に、古今亭志ん八さんは、会場に詰めかけた一人一人に一言語り掛け、握手をしました。

平成 29 年 2 月 9 日

